

国総公第121号

平成26年3月14日

東北地方整備局長 殿

大臣官房技術審議官

東日本大震災の被災地で適用する土木工事標準歩掛の一部改定について

東日本大震災の被災地で適用する土木工事標準歩掛（平成25年9月12日付国総公第60号）の一部を別添のとおり改定し、施行することとしたので通知する。

附則

なお、この通知は平成26年4月1日以降に入札を行う工事から適用する。

国総公第121号

平成26年3月14日

北陸地方整備局長 殿

大臣官房技術審議官

東日本大震災の被災地で適用する土木工事標準歩掛の一部改定について

東日本大震災の被災地で適用する土木工事標準歩掛（平成25年9月12日付国総公第60号）の一部を別添のとおり改定し、施行することとしたので通知する。

附則

なお、この通知は平成26年4月1日以降に入札を行う工事から適用する。

国総公第121号の2

平成26年3月14日

岩手県 県土整備部長 殿

国土交通省大臣官房技術審議官

東日本大震災の被災地で適用する土木工事標準歩掛の一部改定について

標記について、別添のとおり、東北地方整備局及び北陸地方整備局に「東日本大震災の被災地で適用する土木工事標準歩掛」の一部改定の通知をしたので、貴県の工事積算等にあたっては参考にされたい。

なお、貴下関連の市町村等に対しても、この旨周知方願いする。

国総公第121号の2

平成26年3月14日

宮城県 土木部長 殿

国土交通省大臣官房技術審議官

東日本大震災の被災地で適用する土木工事標準歩掛の一部改定について

標記について、別添のとおり、東北地方整備局及び北陸地方整備局に「東日本大震災の被災地で適用する土木工事標準歩掛」の一部改定の通知をしたので、貴県の工事積算等に当たっては参考にされたい。

なお、貴下関連の市町村等に対しても、この旨周知方願いする。

国総公第121号の2

平成26年3月14日

福島県 土木部長 殿

国土交通省大臣官房技術審議官

東日本大震災の被災地で適用する土木工事標準歩掛の一部改定について

標記について、別添のとおり、東北地方整備局及び北陸地方整備局に「東日本大震災の被災地で適用する土木工事標準歩掛」の一部改定の通知をしたので、貴県の工事積算等に当たっては参考にされたい。

なお、貴下関連の市町村等に対しても、この旨周知方願いする。

国総公第121号の2

平成26年3月14日

仙台市 都市整備局長 殿

国土交通省大臣官房技術審議官

東日本大震災の被災地で適用する土木工事標準歩掛の一部改定について

標記について、別添のとおり、東北地方整備局及び北陸地方整備局に「東日本大震災の被災地で適用する土木工事標準歩掛」の一部改定の通知をしたので、貴市の工事積算等にあたっては参考にされたい。

東日本大震災の被災地で適用する土木工事標準歩掛
機械土工(土砂・超ロングアームバックホウ土工)

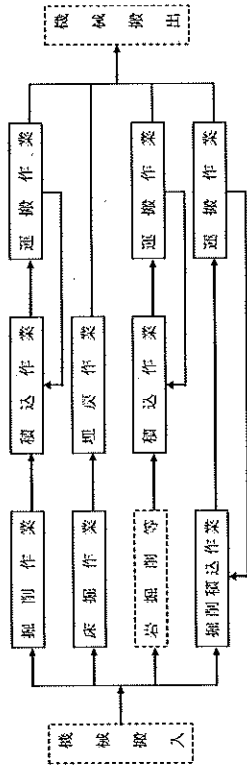
現行基準
のページ

現行(土木工事標準歩掛)

機械土工(土砂)

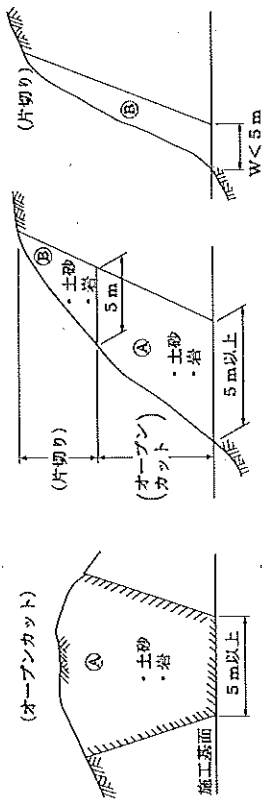
1. 施工概要及び施工形態

1-1 施工概要(施工フロー)



(注) 本歩掛で対応しているのは、表線部分のみである。

1-2 施工形態



施工形態は、掘削箇所地形により「オープンカット」、「片切り」に区分し、工法を選定する。
「オープンカット」は、図1-1に示すような切取面が、水平もしくは緩傾斜をなすように施工が出来る場合で切取幅5m以上、かつ延深20m以上を標準とする。(傾削法については、表1.1を参照)

「片切り」は、図1-2及び図1-3に示すような切取幅5m未満の領域とする。
なお、図1-2に示すような箇所においても、地形及び工事量などの現場条件等を十分考慮のうえ、前述のオープンカット工法が可能と判断される場合(図1-2領域④)はオープンカットを適用する。(傾削法について、表1.2を参照)

現行どおり

被災地で適用する土木工事標準歩掛

東日本大震災の被災地で適用する土木工事標準歩掛
機械土工(土砂・超ロングアームバックホウ土工)

現行基準
のページ

現行(土木工事標準歩掛)

表1.1 オーブンカット (④参照)

種別	掘削法	換算
④-土砂	機械土工 ブルドーザ掘削 バックホウ掘削	【②機械土工(土砂)】
④-岩	機械掘削 リッター掘削 火薬併用リッター掘削 大型ブレーカ掘削	【③機械土工(岩石)】

表1.2 片切り (⑤参照)

掘削法	換算
⑤-土砂 人力併用機械掘削	【②機械土工(土砂)】
⑤-岩 人力併用機械掘削 火薬併用機械掘削	【③機械土工(岩石)】
機械土工が不可能な場合は、人力の削しとする。	【④人カ土工】

2. 掘削法及び機種の選定(土砂)

2-1 掘削法

- (1) オーブンカット
 - ブルドーザ掘削……ブルドーザにより掘削作業を行う作業をいう。
 - バックホウ掘削……バックホウによる掘削及びびく込作業をいう。
- (2) 片切り
 - 人力併用機械掘削……バックホウによる掘削と一部人力による切削しの組合せによる作業をいう。

2-2 機種の選定

標準として積算に用いる機械は、次表のとおりとするが、工事量、工期、現場条件を勘案して最も適した機種を選定する。

(1) ブルドーザの機種選定

表2.1 ブルドーザの機種選定

作業の種類	作業の内容	ブルドーザの規格
掘削押土(造地)	30,000t未満	排出ガス対策型(第1次基準型) 履帯 20t級
	30,000t以上	排出ガス対策型(第1次基準型) 履帯 32t級

- (注) 1. 現場条件により上記により異なる場合は、別途考案する。
2. 土表で作業する際は、1工量並りのブルドーザ掘削押土による最低土量である。
3. 産地軟弱土での作業の場合は、取扱い土量にかかわらず履帯20t級を適用する。

被災地で適用する土木工事標準歩掛

現行どおり

東日本大震災の被災地で適用する土木工事標準歩掛
機械土工(土砂・超ロングアームバックホウ土工)

現行基準
のページ

現行(土木工事標準歩掛)

被災地で適用する土木工事標準歩掛

(2) 掘削積込機械の機種選定

表2.2 掘削積込機械の機種選定

作業の用途	作業の寸法	機械名	規格
掘削積込 作業の選定	50,000m ³ 未満	バックホウ	吐出ガス対置型(第2次基準制) クローラ型 出力0.8m ³ (半機0.6m ³)
	50,000m ³ 以上	"	吐出ガス対置型(第1次基準制) クローラ型 出力1.4m ³ (半機1.0m ³)
氏 (作業土工)	平均掘削 1m以上2m未満の場合	バックホウ	吐出ガス対置型(第2次基準制) クローラ型 出力0.8m ³ (半機0.6m ³)
	平均掘削 1m未満の場合	"	吐出ガス対置型(第1次基準制) クローラ型 出力0.45m ³ (半機0.35m ³)

(注) 1. 現業条件により上表により難い場合は、別途考慮する。
2. 上表で示す土量は、1工字ダリのバックホウによる取扱い土量である。

(3) ダンプトラック運搬作業

標準 第10t級

特別な場合は、別途考慮する。

(注) 特殊な場合は、小規模工事、現場狭小のための駆動機構の使用が不適当な場合をいう。

3. 運搬距離による土工方式の区分

土運搬の工法は、次表を標準とする。

表3.1 土運搬の工法選定

運搬距離	標準工法
60m以下	ブルドーザが標準
60mを超える	バックホウ+ダンプトラックが標準

(注) 土表により難い場合は、別途考慮する。

4. 標準の施工歩掛

(1) 土量の愛称

すべて地山土量で表示する。

ただし、施工土量(地山土量)をほぐした土量及び掘削後の土量の状態に換算する場合は、次表の土量

換算係数1を乗じて算出する。

現行どおり

東日本大震災の被災地で適用する土木工事標準歩掛
機械土工(土砂・超ロングアームバックホウ土工)

現行基準
のページ

現行(土木工事標準歩掛)

表4.1 土質係数等の値

区別の作業量	求める作業量	地山の土量	ほぐした土量	新設めた土量
埋山の土量	1	L	C	

(注) L及びCは「第2編2章土工の土質変化率」による。

(2) 土質区分

日当り施工量における土質は、次表のとおり区分する。

表4.2 土質区分

土質	土質名	分類土質名
砂		砂
砂質土、普通土、砂質ローム		砂質土
レキ質土、砂利混り土、レキ		レキ質土
粘土、粘性土、シルト質ローム、砂質粘性土、粘土質ローム		粘性土
火山灰質粘性土、有機質土		
岩塊、玉石混り土、砕砕岩		岩塊・玉石

4-1 ブルドーザの作業能力

(1) 日当り施工量

ブルドーザによる各作業の日当り施工量は、次表を標準とする。

表4.3 日当り施工量 (1日当り)

名称	規格	土質名	単価	地山の掘削土	ルーズな状態の掘削土
ブルドーザ	排出ガス削減型 (第1次基準値) 掘削20t級	砂・砂質土・レキ質土 ・粘性土	m ³	320	540
ブルドーザ	排出ガス削減型 (第1次基準値) 普通22t級	岩塊・玉石	#	200	350
ブルドーザ	排出ガス削減型 (第1次基準値) 普通22t級	砂・砂質土・レキ質土 ・粘性土	#	710	-
ブルドーザ	排出ガス削減型 (第1次基準値) 普通22t級	岩塊・玉石	#	440	-

- (注) 1. 上記の施工量は、運搬距離60mまでの掘削土作業を念んた値である。
2. 上記の施工量は、転圧を伴わない掘削しを念んた作業にも適用出来る。ただし、転圧を伴う場合は、「第5編1章土工の土工」により別途計上する。
3. 「ルーズな状態の掘削土」作業は、掘削20t級を適用する。
4. 破砕を伴った掘削したものはリッピング後の状態を考慮し、その状態に応じた土質の値とする。
5. 破砕の施工量は、「ルーズな状態の掘削土」を適用する。
6. 集積作業は、「ルーズな状態の掘削土」を適用する。

被災地で適用する土木工事標準歩掛

現行どおり

東日本大震災の被災地で適用する土木工事標準歩掛 機械土工(土砂・超ロングアームバックホウ土工)

現行基準 のページ

現行(土木工事標準歩掛)

4-2 バックホウの作業能力
(1) 日当り施工量
バックホウによる各作業の日当り施工量は、次表を標準とする。

作業の種類	名称	規格	土質名	単位	数量	
					際寄なし	際寄あり
地山の掘削積込	バックホウ運転	排出ガス対象型 (第2次基準型)・クローラ型 山積0.8m ³ (平積0.6m ³)	レキ質土・砂・砂質土・粘性土	m ³	300	190
			岩塊玉石	"	230	140
			レキ質土・砂・砂質土・粘性土	"	500	320
			岩塊玉石	"	410	260
ルーズな状態の積込	バックホウ運転	排出ガス対象型 (第1次基準型)・クローラ型 山積1.4m ³ (平積1.0m ³)	レキ質土・砂・砂質土・粘性土	"	310	
			岩塊玉石・岩(破砕)	"	260	
			レキ質土・砂・砂質土・粘性土	"	520	
			岩塊玉石・岩(破砕)	"	440	
戻り (作業土工)	バックホウ運転	排出ガス対象型 (第2次基準型)・クローラ型 山積0.8m ³ (平積0.6m ³)	レキ質土・砂・砂質土・粘性土	"	220	180
			岩塊玉石	"	160	130
			レキ質土・砂・砂質土・粘性土	"	150	100
			岩塊玉石	"	110	70

(注) 現場条件の内容
1. 地山の掘削積込
際寄なし：積込物及び建造物等の障害物や交通の影響により施工条件が制限されず、連続掘削作業が出来る場合。
際寄あり：掘削作業において障害物等により施工条件に制限があり(例えば作業際寄が多い場合)、連続掘削作業が出ない場合。
2. 戻り(作業土工)
際寄なし：①積込物及び建造物等の障害物や交通の影響により施工条件が制限されないオーブンの土留・仮掘削工事の場合。
際寄あり：①床掘作業において際寄物等により施工条件に制限がある場合(例えば作業際寄が多い場合)。
②土留・仮掘削工の中に、切戻・戻し又は基礎杭等の障害物がある場合。
③掘削箇所が地下水位等で排水をせす水中掘削作業(勝越、基礎掘削、床掘り)を行う場合は際寄ありを適用する。
4. 収容をリッピングしたものは、リッピング後の状態を考慮し、その状態に応じた土質とする。
5. 表面整正(保付面の整正作業)が必要な場合は、表面整正100m³当り普通作業員2人を別途計上する。
6. 機械土工(岩石)における床掘平均掘削幅2m未満の場合の破砕片除去及び積込みは、ルーズな状態のバックホウ山積0.45m³(平積0.35m³)を適用する。

被災地で適用する土木工事標準歩掛

4-2 バックホウの作業能力
(1) 日当り施工量
バックホウによる各作業の日当り施工量は、次表を標準とする。

作業の種類	名称	規格	土質名	単位	数量	
					際寄なし	際寄あり
地山の掘削積込	バックホウ運転	排出ガス対象型 (第2次基準型)・クローラ型 山積0.8m ³ (平積0.6m ³)	レキ質土・砂・砂質土・粘性土	m ³	240	152
			岩塊玉石	"	184	112
			レキ質土・砂・砂質土・粘性土	"	400	256
			岩塊玉石	"	328	208
ルーズな状態の積込	バックホウ運転	排出ガス対象型 (第1次基準型)・クローラ型 山積1.4m ³ (平積1.0m ³)	レキ質土・砂・砂質土・粘性土	"	248	
			岩塊玉石・岩(破砕)	"	208	
			レキ質土・砂・砂質土・粘性土	"	416	
			岩塊玉石・岩(破砕)	"	362	
戻り (作業土工)	バックホウ運転	排出ガス対象型 (第1次基準型)・クローラ型 山積0.45m ³ (平積0.35m ³)	レキ質土・砂・砂質土・粘性土	"	128	
			岩塊玉石・岩(破砕)	"	104	
			レキ質土・砂・砂質土・粘性土	"	220	180
			岩塊玉石	"	160	130
戻り (作業土工)	バックホウ運転	排出ガス対象型 (第1次基準型)・クローラ型 山積0.45m ³ (平積0.35m ³)	レキ質土・砂・砂質土・粘性土	"	150	100
			岩塊玉石	"	110	70

(注) 現場条件の内容
1. 地山の掘削積込
際寄なし：積込物及び建造物等の障害物や交通の影響により施工条件が制限されず、連続掘削作業が出来る場合。
際寄あり：掘削作業において障害物等により施工条件に制限があり(例えば作業際寄が多い場合)、連続掘削作業が出ない場合。
2. 戻り(作業土工)
際寄なし：①積込物及び建造物等の障害物や交通の影響により施工条件が制限されないオーブンの土留・仮掘削工事の場合。
際寄あり：①床掘作業において際寄物等により施工条件に制限がある場合(例えば作業際寄が多い場合)。
②土留・仮掘削工の中に、切戻・戻し又は基礎杭等の障害物がある場合。
③掘削箇所が地下水位等で排水をせす水中掘削作業(勝越、基礎掘削、床掘り)を行う場合は際寄ありを適用する。
4. 収容をリッピングしたものは、リッピング後の状態を考慮し、その状態に応じた土質とする。
5. 表面整正(保付面の整正作業)が必要な場合は、表面整正100m³当り普通作業員2人を別途計上する。
6. 機械土工(岩石)における床掘平均掘削幅2m未満の場合の破砕片除去及び積込みは、ルーズな状態のバックホウ山積0.45m³(平積0.35m³)を適用する。

東日本大震災の被災地で適用する土木工事標準歩掛
機械土工(土砂・超ロングアームバックホウ土工)

現行基準
のページ

現行(土木工事標準歩掛)

- (2) 床掘り(作業土工)補助労働
構造物等(共同構造物)の施工に当り土留方式により床掘り作業を行う場合、土留材等に付着する土(土べら)及び掘削し・切築・火打梁等により機械掘削出来ない箇所、小規模な排水処理等の作業のため、普通作業員を計上する。

表4.5 床掘り補助労働 (100㎡当り)

作業の種類	土留方式	名称	単位	数	数
床掘り (作業土工)	自立式	普通作業員	人	0.3	
	切築掘削方式	"	"	0.9	
	グラブアンドカガシ	"	"	0.7	

4-3 片切掘削(人力併用機械掘削)

- (1) 機種の変定
機種・規格は、次表を標準とする。

表4.6 機種の変定

機種名	規格	単位	数
バックホウ	排土容量が3000ℓ(第2次取組)のクローラ型山積0.6m ³ (平均0.6m ³)	台	1

(2) 日当り施工量

片切掘削(人力併用機械掘削)の日当り施工量は、次表を標準とする。

表4.7 日当り施工量 (1日当り)

名称	規格	土質名	単位	数量
バックホウ掘削	排土容量が3000ℓ(第2次取組)のクローラ型山積0.6m ³ (平均0.6m ³)	砂・砂質土・粘性土・中硬土	m ³	220

(3) 人力掘削歩掛

片切掘削(人力併用機械掘削)の人力掘削歩掛は、次表を標準とする。

表4.8 片切掘削(人力併用機械掘削)の人力掘削歩掛 (100㎡当り)

名称	土質名	単位	数量
普通作業員	砂・砂質土・粘性土・中硬土	人	3.0

(注) 本歩掛は掘削までとし、法面整形は含まない。
なお、法面整形は法面工(法面整形工)の機械による切土整形にて計上する。

被災地で適用する土木工事標準歩掛

現行どおり

東日本大震災の被災地で適用する土木工事標準歩掛
機械土工(土砂・超ロングアームバックホウ土工)

現行基準
のページ

現行(土木工事標準歩掛)

4-4 ダンプトラックの運搬作業
(1) ダンプトラック (10t積載) による、土砂100m³当り運搬日数は、表4.9、表4.10及び表4.11による。

表4.9 100m³当り運搬日数 (土砂)

送達機種・規格		バックホウ		排出ガス対策型 (第2次基準型) クローラ型(100.8m ³ (平均0.6m ³))		D I D 区間 : 無し		D I D 区間 : 有り						
送搬機種・規格		ダンプトラック 10t積載		ダンプトラック 10t積載		D I D 区間 : 無し		D I D 区間 : 有り						
運搬距離 (km)	0.3 以下	1.0 以下	1.5 以下	2.0 以下	3.0 以下	4.0 以下	5.5 以下	7.5 以下	9.5 以下	11.5 以下	15.5 以下	22.5 以下	49.5 以下	89.0 以下
運搬日数 (日)	0.65	0.75	0.85	0.95	1.1	1.3	1.5	1.8	2.1	2.4	2.7	3.1	3.8	4.7
運搬距離 (km)	0.3 以下	1.0 以下	1.5 以下	2.0 以下	3.0 以下	3.5 以下	5.0 以下	7.0 以下	8.5 以下	11.0 以下	14.0 以下	19.5 以下	31.5 以下	59.0 以下
運搬日数 (日)	0.65	0.75	0.85	0.95	1.1	1.3	1.5	1.8	2.1	2.4	2.7	3.1	3.8	4.7

表4.10 100m³当り運搬日数 (土砂)

送達機種・規格		バックホウ		排出ガス対策型 (第1次基準型) クローラ型(1.4m ³ (平均1.0m ³))		D I D 区間 : 無し		D I D 区間 : 有り						
送搬機種・規格		ダンプトラック 10t積載		ダンプトラック 10t積載		D I D 区間 : 無し		D I D 区間 : 有り						
運搬距離 (km)	0.3 以下	1.0 以下	1.5 以下	2.0 以下	3.0 以下	4.5 以下	6.0 以下	8.5 以下	10.0 以下	12.5 以下	16.5 以下	23.5 以下	51.5 以下	90.0 以下
運搬日数 (日)	0.50	0.60	0.70	0.80	0.90	1.0	1.2	1.3	1.5	1.8	2.1	2.4	2.7	3.1
運搬距離 (km)	0.3 以下	1.0 以下	1.5 以下	2.0 以下	3.0 以下	3.5 以下	5.5 以下	8.0 以下	9.5 以下	11.5 以下	15.0 以下	20.5 以下	33.0 以下	60.0 以下
運搬日数 (日)	0.50	0.60	0.70	0.80	0.90	1.0	1.2	1.3	1.5	1.8	2.1	2.4	2.7	3.1

被災地で適用する土木工事標準歩掛

現行どおり

東日本大震災の被災地で適用する土木工事標準歩掛
機械土工(土砂・超ロングアームバックホウ土工)

現行基準
のページ

現行(土木工事標準歩掛)

被災地で適用する土木工事標準歩掛

表4.11 100m³当り運搬日数 (土砂)

運搬距離・規格	トラック	排出ガス対策型(第1次基準値)クローラ型山積0.45m ³ (平均0.35m ³)
運搬距離(km)	0.5以下 1.0以下 1.5以下 2.0以下 2.5以下 3.0以下 3.5以下 4.0以下	0.5以下 1.0以下 1.5以下 2.0以下 2.5以下 3.0以下 3.5以下 4.0以下
運搬日数(日)	1.1 1.2 1.4 1.6 1.8 2.1 2.4 2.7	1.1 1.2 1.4 1.6 1.8 2.1 2.4 2.7

DI D 区分：無し

運搬距離(km)	0.5以下	1.0以下	1.5以下	2.0以下	2.5以下	3.0以下	3.5以下	4.0以下	4.5以下	5.0以下	5.5以下	6.0以下
運搬日数(日)	1.1	1.2	1.4	1.6	1.8	2.1	2.4	2.7	3.1	3.8	4.7	6.3

DI D 区分：有り

運搬距離(km)	0.5以下	1.0以下	1.5以下	2.0以下	2.5以下	3.0以下	3.5以下	4.0以下	4.5以下	5.0以下	5.5以下	6.0以下
運搬日数(日)	1.1	1.2	1.4	1.6	1.8	2.1	2.4	2.7	3.1	3.8	4.7	6.3

(注) 1. 上表は、地山100m³の土量を運搬する日数である。
 2. 運搬距離は片道であり、往復と復数が異なる時は、平均値とする。
 3. 自動車専用道路を利用する場合には、別途考慮する。
 4. DI D (人口集中地区)は、総務省統計局の国勢調査都府県管轄条件の人口集中地区別表によるものとする。
 5. 運搬距離が、60kmを超える場合は、別途計上する。

(2) 100m³当り運搬日数(軟岩・硬岩)
 軟岩及び硬岩の100m³当り運搬日数は、次式による。
 $100\text{m}^3\text{当り運搬日数} = \text{土砂}100\text{m}^3\text{当り運搬日数} \times (1 + K)$
 K：補正係数

補正係数(K)の値は、次表とする。

表4.12 補正係数(K)

土質	軟岩	硬岩
補正係数	+0.22	+0.37

5. 単価表
 (1) ブルドーザ掘削100m³当り単価表

名称	単位	数量	単価
ブルドーザ掘削(第1次基準) 掘削100m ³ 以内	日	100/D	表4.2
計	式	1	

(注) D：日当り施工量

現行どおり

東日本大震災の被災地で適用する土木工事標準歩掛
機械土工(土砂・超ロングアームバックホウ土工)

現行基準
のページ

現行(土木工事標準歩掛)

(2) バックホウ掘削100m³当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
バックホウ運転	掘削作業用(標準)ロータリ型(6m ³ /分)以上 の1.00(標準)以上の排土能力を有する機械	日	100/D	表4.4
諸雑費	ロータリ型(標準)	式	1	
計				

(注) D:日当り施工量

(3) バックホウ掘削100m³当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
バックホウ運転	掘削作業用(標準)ロータリ型(6m ³ /分)以上 の1.00(標準)以上の排土能力を有する機械	日	100/D	表4.4
諸雑費	ロータリ型(標準)	式	1	
計				

(注) D:日当り施工量

(4) バックホウ戻土100m³当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
バックホウ運転	排土容量(標準)100m ³ 以上の型(6m ³ /分)以上 の1.00(標準)以上の排土能力を有する機械	日	100/D	表4.4
普通作業員		人		表4.5 表4.6 表4.7
諸雑費		式	1	
計				

(注) D:日当り施工量

(5) 掘削補正労力(基礎整正)100m²当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
普通作業員		人		表4.5
諸雑費		式	1	
計				

被災地で適用する土木工事標準歩掛

現行どおり

東日本大震災の被災地で適用する土木工事標準歩掛
機械土工(土砂・超ロングアームバックホウ土工)

現行基準
のページ

現行(土木工事標準歩掛)

(6) 片切掘削(人力併用機械掘削) 100m²当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
バックホウ運転	排出ガス対策型(第1次基準型) 100m ² 当り	日	100/D	表4.7
普通作業員		人		表4.8
諸雑費		式	1	
計				

(注) D:日当り掘工事

(7) 機械掘削単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
ブルドーザ	排出ガス対策型(第1次基準型) 総排気量1.83t	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→158 機械損料数量→1.83
ブルドーザ	排出ガス対策型(第1次基準型) 総排気量1.83t	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→238 機械損料数量→1.83
バックホウ(掘削用)	排出ガス対策型(第2次基準型) クローラ型 山排気量1.08t	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→108 機械損料数量→1.46
バックホウ(掘削用)	排出ガス対策型(第1次基準型) クローラ型 山排気量1.33t	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→161 機械損料数量→1.33
バックホウ(掘削用)	排出ガス対策型(第1次基準型) クローラ型 山排気量1.38t	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→58 機械損料数量→1.38
バックホウ(掘削用)	排出ガス対策型(第1次基準型) クローラ型 山排気量1.38t	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→57 機械損料数量→1.38
バックホウ(掘削用)	排出ガス対策型(第2次基準型) クローラ型 山排気量1.48t	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→110 機械損料数量→1.48
バックホウ(掘削用)	排出ガス対策型(第2次基準型) クローラ型 山排気量1.33t	機-18	運転労務数量→1.00 燃料消費量→101 機械損料数量→1.33
クレーン	10t積載	機-22	運転労務数量→1.00 燃料消費量→76 機械損料数量→1.24

現行どおり

被災地で適用する土木工事標準歩掛

6. 埋戻し

6-1 適用範囲
本資料は、機械による埋戻し(既均し含む)及び補固の一連作業に適用する。なお、「第2編2章土工④小規
模土工」の適用範囲に合致する工事は、適用しない。

東日本大震災の被災地で適用する土木工事標準歩掛
機械土工(土砂・超ロングアームバックホウ土工)

現行基準
のページ

現行(土木工事標準歩掛)

6-2 施工計画

6-2-1 埋戻し

埋戻し
埋戻しは、バックホウ(排出ガス削減型(第2次基準値)・クローラ型山積0.8m³(平積0.6m³)又は排出ガス削減型(第1次基準値)山積0.45m³(平積0.35m³))を標準とする。なお、埋戻し機械の稼働時間には、放均しを含む。

6-2-2 放均し補助

放均し補助
埋戻しにより、埋戻し材料はねっつけ、放均しを行うが、積込物周辺の放均し補助として普通作業員を計上する。

6-2-3 締固め

締固め機械は、次表を標準とする。

表6.1 締固め機械の仕様

埋戻し種別	基準埋戻し幅(W)	締固め機械	規格	台数
A	W _i ≧4m	ブルドーザ	積込容量(第1次基準値)次基準値 積込容量	1
B	W _i ≧4m	振動ローラー	ハンドガイド幅0.9~1.1t 60~80kg	1
C	1m≦W _i <4m	振動ローラー	ハンドガイド幅0.9~1.1t 60~80kg	1
D	W _i <1m	クレーン	60~80kg	1

(注) 1. 埋戻し幅W_iとは最大埋戻し幅、埋戻し幅W_iとは最小埋戻し幅を求め、下図のとおりとする。
なお、積込等での前面の最大埋戻し幅が異なる場合は、広い方の仕様を標準とし、狭い方も同一歩掛を適用するものとする。

- 埋戻し幅W_iが4m以上の場合は、埋戻し別Aを適用するものとする。
- 締固め機械等の購入が困難な場合、又は締固めを伴わない作業等で、上表によることが著しく不適当と判断される場合は別途考慮する。

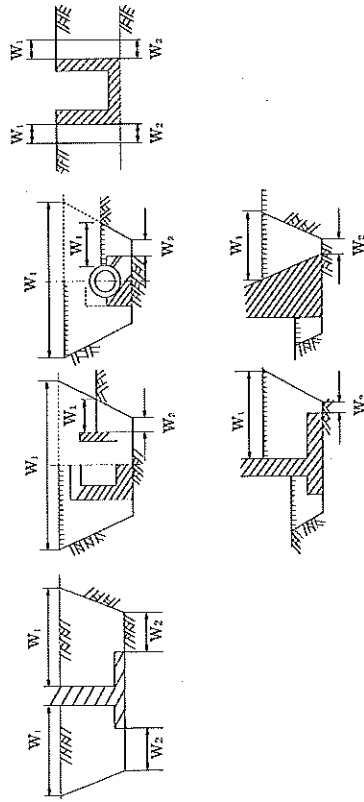
被災地で適用する土木工事標準歩掛

現行どおり

東日本大震災の被災地で適用する土木工事標準歩掛
機械土工(土砂・超ロングアームバックホウ土工)

現行基準
のページ

現行(土木工事標準歩掛)



6-3 施工歩掛
6-3-1 埋戻土工A
埋戻土工A歩掛は、次表を標準とする。

表6.2 埋戻土工A歩掛 (100m²当り)

名称	規格	単位	数量	備考
バックホウ運転	吐出ガス排煙管径(φ225)以内のクローラ型(1100×8m ² (標準0.5m ²))	h	2.0	
ブルドーザ運転	吐出ガス排煙管径(φ225)以内の標準型	h	2.0	

(注) 上表歩掛には、はねつけ〜掘削までの作業が含まれている。

6-3-2 埋戻土工B
埋戻土工B歩掛は、次表を標準とする。

表6.3 埋戻土工B歩掛 (100m²当り)

名称	規格	単位	数量	備考
普通作業員		人	1.6	教習し補助
バックホウ運転	吐出ガス排煙管径(φ225)以内のクローラ型(1100×8m ² (標準0.5m ²))	h	2.8	
振動ローラ運転	ハンドガイド式φ1.8~1.1t	日	0.92	
クンバ掘削	60~80kg	m ³	4	

(注) 1. 上表歩掛には、はねつけ〜掘削までの作業が含まれている。
2. クンバ掘削は、6-3-5のクンバ掘削の面による。
3. 振動ローラ、クンバは、貸料とする。

被災地で適用する土木工事標準歩掛

現行どおり

東日本大震災の被災地で適用する土木工事標準歩掛
機械土工(土砂・超ロングアームバックホウ土工)

現行基準
のページ

現行(土木工事標準歩掛)

6-3-3 現行LC

現行LC歩掛は、次表を標準とする。

表6.4 現行工C歩掛 (100m²当り)

名称	規格	単位	数量	備考
普通作業員		人	4.0	概約し補助
バックホウ運転	吐出容量が原動機2次送電機 クローブ型 出力0.5m ³	h	4.0	
振動ローラ運転	ハンドガイド式0.8~1.1t	日	1.35	
クンパ補固め	60~80kg	m ³	10	

(注) 1. 上述歩掛には、はねつけ~範囲までの作業が含まれている。
2. クンパ補固めは、6-3-5のクンパ補固めによる。
3. 振動ローラ、クンパは、賃料とする。

6-3-4 現行ID

現行ID歩掛は、次表を標準とする。

表6.5 現行工D歩掛 (100m²当り)

名称	規格	単位	数量	備考
普通作業員		人	4.0	概約し補助
バックホウ運転	吐出容量が原動機2次送電機 クローブ型 出力0.5m ³	h	6.0	
クンパ補固め	60~80kg	m ³	100	

(注) 1. 上述歩掛には、はねつけ~範囲までの作業が含まれている。
2. クンパ補固めは、6-3-5のクンパ補固めによる。
3. はねつけ機械の搬入が困難な場合は、「人力搬上+クンパ補固め」とする。
4. クンパは、賃料とする。

6-3-5 クンパ補固め

クンパによる範囲内施工歩掛は、次表を標準とする。

表6.6 範囲内機械施工歩掛 (100m²当り)

名称	単位	数量	備考
普通作業員	人	3.0	範囲外補助
クンパ運転	日	3.0	

被災地で適用する土木工事標準歩掛

現行どおり

東日本大震災の被災地で適用する土木工事標準歩掛
機械土工(土砂・超ロングアームバックホウ土工)

現行基準
のページ

現行(土木工事標準歩掛)

被災地で適用する土木工事標準歩掛

6-4 単価表

(1) 埋戻工A.100m³当り単価表

名称	規格	単位	数量	備考
バックホウ運転	吐出ガス容量(標準) 1000.0m ³ (7400.0m ³)	h		表6.2
アルドール運転	吐出ガス容量(標準) 200.0m ³ (1480.0m ³)	h		"
計		式	1	

(2) 埋戻工B.100m³当り単価表

名称	規格	単位	数量	備考
普通作業員		人		表6.3 概均し補助
バックホウ運転	吐出ガス容量(標準) 1000.0m ³ (7400.0m ³)	h		"
振動ローラ運転	ハンダガイド式0.8~1.1t	日		"
タンバロー固め	60~80kg	m ³		" 補助労務含む
計		式	1	

(3) 埋戻工C.100m³当り単価表

名称	規格	単位	数量	備考
普通作業員		人		表6.4 概均し補助
バックホウ運転	吐出ガス容量(標準) 1000.0m ³ (7400.0m ³)	h		"
振動ローラ運転	ハンダガイド式0.8~1.1t	日		"
タンバロー固め	60~80kg	m ³		" 補助労務含む
計		式	1	

(4) 埋戻工D.100m³当り単価表

名称	規格	単位	数量	備考
普通作業員		人		表6.5 概均し補助
バックホウ運転	吐出ガス容量(標準) 1000.0m ³ (7400.0m ³)	h		"
タンバロー固め	60~80kg	m ³		" 補助労務含む
計		式	1	

現行どおり

東日本大震災の被災地で適用する土木工事標準歩掛
機械土工(土砂・超ロングアームバックホウ土工)

現行基準
のページ

現行(土木工事標準歩掛)

(5) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	通 用 車 種 表	相 定 歩 掛
バックホウ	吐出ガス排気(第2次基準)100 クローラ型 1100km ³ (4400.0m ³)	機-1	
バックホウ	吐出ガス排気(第2次基準)100 クローラ型 1100km ³ (4400.0m ³)	機-1	
ブルドーザ	吐出ガス排気(第1次基準)100 普通15t級	機-1	
振動ローラ	ハンドガイドAC0.8~1.1t	機-31	潤滑油消費量→1.0 燃料消費量→5.2 電料消費量→1.34
クレーン	60~80kN	機-31	潤滑油消費量→1.0 燃料消費量→1.38 主燃料→ガソリン

7. 機械土工(土砂)〔クラムシエルの作業能力〕

7-1 適用範囲

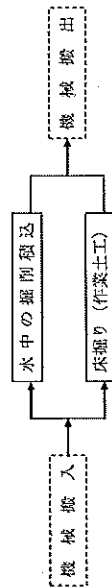
本資料は、土留・板締め工の施工条件において掘削深さが5mを超える場合、又は掘削深さが5m以内でも土留・板締め工の切戻等のためバックホウが使用出来ない場合で床掘り(作業土工)及び水中の掘削掘込作業に適用する。

ただし、水中掘削掘込については、陸上作業を対象とし、海上・水上作業は除く。

なお、別途歩掛が存在する深層工、鋼管矢板基礎工、共同溝工、地すべり防止工は除く。

7-2 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



(注) 水歩掛で対応しているのは、又線部分のみである。

被災地で適用する土木工事標準歩掛

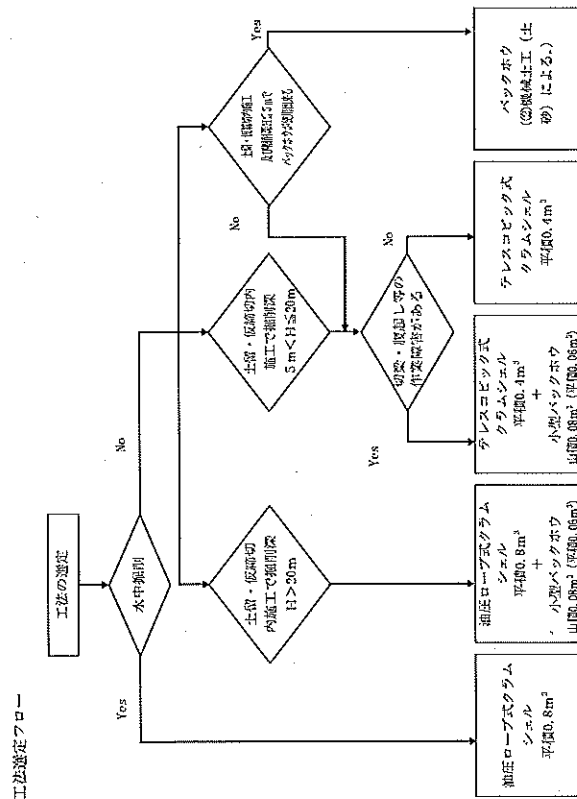
現行どおり

東日本大震災の被災地で適用する土木工事標準歩掛
機械土工(土砂・超ロングアームバックホウ土工)

現行基準
のページ

現行(土木工事標準歩掛)

被災地で適用する土木工事標準歩掛



現行どおり

7-3 機種選定の
機械・規格は、次表を標準とする。

表7.1 機種選定

機種	作業種別	台数	水中掘削		床掘り(作業土工)		摘要
			積込み	掘削深	掘削深	H	
加圧ロープ式クラムシエル 平積0.8m³	1	○		5m<H<20m		H>20m	
加圧コシエル 平積0.4m³	1		○				掘削・積込み
小型バックホウ排出ガス削減型 (第1次基準)クラムシエル 山積0.06m³ (平積0.06m³)	1				○(注)		掘削・積込み 掘削・集土

(注) 加圧クラムシエル・テレスコピック式クラムシエルの作業に於いて、土留・仮設切工の中に切戻・戻し等の作業発生がある場合は、小型バックホウを計上する。

東日本大震災の被災地で適用する土木工事標準歩掛
機械土工(土砂・超ロングアームバックホウ土工)

現行基準
のページ

現行(土木工事標準歩掛)

7-4 掘り歩掛

7-4-1 日当り施重量

各作業の日当り施重量は、次表を標準とする。

表7.2 日当り施重量 (1日当り)

作業の種類	機 種	土 質 名	単 位	数 量
水中の掘削取込	油圧ロープ式クラムシムル、 クローラー型	レキ質土・砂・砂質土・粘性土	m ³	250
		岩塊玉石	"	180
床 掘 (作業土工)	油圧クラムシムル、 クローラー型	レキ質土・砂・砂質土・粘性土	"	300
		岩塊玉石	"	140
		レキ質土・砂・砂質土・粘性土	"	120
	油圧ロープ式クラムシムル、 クローラー型 + 小型バックホウ 掘削機(第1次機種) クローラー型 山形0.06m ³	岩塊玉石	"	90

- (注) 1. 床掘りの現場条件の内容
既設なし；土留・仮掘削工の中に切戻・掘削し又は基礎杭等の障害物がない場合。
既設あり；土留・仮掘削工の中に切戻・掘削し又は基礎杭等の障害物がある場合。
2. 蒸気型(戻付面の蒸気作業)が必要の場合は、蒸気型100m³当り普通作業員2人を別途計上する。
3. 油圧式クラムシムル・クローラー型の場合、蒸気型100m³当り普通作業員2人を別途計上する。
4. 小型バックホウの使用については、別途計上する。
5. 室内でバックホウを使用する場合、及び蒸気型、油圧型作業に防護施設、蒸気型等が必要な場合は別途計上する。

7-4-2 床掘り(作業土工)補助労働

土留・仮掘削方式により床掘作業を行う場合、上留材等に付着する土(土べら)落とし、掘削し・切戻し・火打等により機械掘削出来ない箇所的人力掘削及び小規模な排水処理等の作業のため、普通作業員を計上する。

表7.3 床掘補助労働 (100m³当り)

作業の種類	土留方式	名 称	単 位	数 量
床 掘 (作業土工)	自立式	普通作業員	人	0.3
		切戻掘削し方式	"	0.9
		クランアントン方式	"	0.7

7-4-3 ダンプトラックの運搬作業
標準は10t積とし、別途計上する。

被災地で適用する土木工事標準歩掛

現行どおり

東日本大震災の被災地で適用する土木工事標準歩掛
機械土工(土砂・超ロングアームバックホウ土工)

現行基準
のページ

現行(土木工事標準歩掛)

7-5 単 価 ・ 表

(1) クラムシェル(油圧ロップ式・クローラ型)水中掘削深100m³当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	積 算
クラムシェル運転機	油圧ロップ式・クローラ型 平積0.8m ³	日	100/D	表7.2
諸 運 費		式	1	
計				

(2) クラムシェル(テレスコピック式・クローラ型)床掘(掘削深5m<H≤20m)100m³当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	積 算
クラムシェル運転機	テトスコピック式・クローラ型 平積0.4m ³	日	100/D	表7.2
普通作業員		人		表7.3 必要に応じて計上
諸 運 費		式	1	
計				

(3) クラムシェル(油圧ロップ式・クローラ型)床掘(掘削深H>20m)100m³当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	積 算
クラムシェル運転機	油圧ロップ式・クローラ型 平積0.8m ³	日	100/D	表7.2
小型バックホウ運転機	吐出ガス排気型(即放法排気)クローラ型 平積0.06m ³ (平積0.06m ³)	日	100/D	表7.2
普通作業員		人		表7.3
諸 運 費		式	1	
計				

(4) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 率 項
クラムシェル	油圧ロップ式 クローラ型 平積0.8m ³	機-18	運転労務数→1.00 燃料消費量→14 機械損料数→1.58
クラムシェル	テレスコピック式 クローラ型 平積0.4m ³	機-18	運転労務数→1.00 燃料消費量→135 機械損料数→1.58
小型バックホウ	吐出ガス排気型(即放法排気) クローラ型 平積0.06m ³ (平積0.06m ³)	機-23	運転労務数→1.00 燃料消費量→24 機械損料数→1.73

被災地で適用する土木工事標準歩掛

現行どおり

東日本大震災の被災地で適用する土木工事標準歩掛
機械土工(土砂・超ロングアームバックホウ土工)

現行基準
のページ

現行(土木工事標準歩掛)

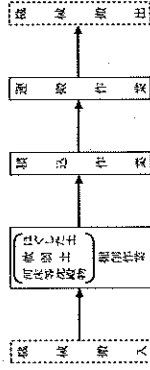
被災地で適用する土木工事標準歩掛

機械土工(超ロングアームバックホウ土工)

1. 適用範囲
本規格は、河川工事における川や水路及び河川等の河床等に堆積した堆積物、底泥等の除去を目的とするような常態作業及び遭難、河川工事におけるほぐした土の細碎砕砕作業、超ロングアームバックホウにより施工する場合に適用する。ただし、これ以外の一般土工には適用しない。

2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。



(注) 本歩掛で対応しているのは、2確率のみである。

3. 機種の選定

機種・取柄は、次表を標準とする。

表 3.1 機種の選定

作業種別	機種名	現 作	単位	数量	備 考
堆積物除去(水中の堆積物除去)	超ロングアームバックホウ	排出ガス対策型(第1次基準) クローラ型(山積4m ³ (97400.5m ³))	台	1	次上作業を対象とし、池上、水上作業は除く。
運	ダンプトラック	10t級	台	1	必要に応じて計上する。

(注) 現場条件により上記より異なる場合は、別途考慮する。

現行どおり

東日本大震災の被災地で適用する土木工事標準歩掛 機械土工(土砂・超ロングアームバックホウ土工)

現行基準
のページ

現行(土木工事標準歩掛)

被災地で適用する土木工事標準歩掛

- (1) 超ロングアームバックホウの作業範囲(参考)
超ロングアームバックホウの作業範囲を以下に示す。

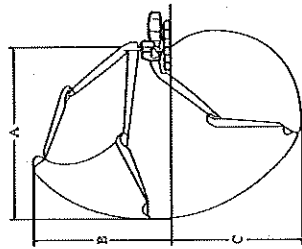


図3-1 超ロングアームバックホウの作業範囲

A	最大掘削半径	15.2
B	最大掘削高さ	13.1
C	最大掘削長さ	11.7

4. 機械の施工歩掛

- (1) バックホウの作業日数
バックホウの作業日数は、次表による。

作業	日数	歩掛	(D)
表4.1 掘削深達100m当り作業日数		0.88	

- (2) グラブトラクタの運搬日数
グラブトラクタ(10t積載)による、土砂100m当りの運搬日数は、次表を標準とする。

積込積出・運送	超ロングアームバックホウ 掘削深達100m当り作業日数		D I D 区間: 無し	
	0.4m	(参考0.3m)	0.3	0.5
運搬距離 (m)	以下	以下	以下	以下
運搬日数 (日)	1.6	1.7	1.9	2.1
運搬距離 (m)	以下	以下	以下	以下
運搬日数 (日)	1.6	1.7	1.9	2.1

現行どおり

現行どおり

4. 機械の施工歩掛
(1) バックホウの作業日数
バックホウの作業日数は、次表による。

作業	日数	歩掛	(D)
表4.1 掘削深達100m当り作業日数		0.88	

東日本大震災の被災地で適用する土木工事標準歩掛
機械土工(土砂・超ロングアームバックホウ土工)

現行基準
のページ

現行(土木工事標準歩掛)

5. 単価表
(1) 機械土工(超ロングアームバックホウ土工) 100㎡当り単価表

名称	仕様	単位	数量	掛	要
超ロングアームバックホウ	排出ガス対策型 (第1次基準型) クローラ型山卸、4m (平積0.3m)	日			表4.1
クランプトラック	10t積載	"			表4.2
取	式		1		必要に応じて計上
計					

(2) 燃料運搬単価表

機械名	仕様	適用単価表	指江事項
超ロングアームバックホウ	排出ガス対策型 (第1次基準型) クローラ型山卸、4m (平積0.3m)	表-18	運転分給油費-1.00 燃料消費費-101 機械損料費-1.47
クランプトラック	10t積載	表-22	運転分給油費-1.00 燃料消費費-76 機械損料費-1.29

現行どおり

被災地で適用する土木工事標準歩掛

東日本大震災の被災地で適用する土木工事標準歩掛
機械土工(土砂・超ロングアームバックホウ土工)

<p>現行基準 のページ</p>	<p>現行(土木工事標準歩掛)</p>	<p>被災地で適用する土木工事標準歩掛</p>				
	<div data-bbox="391 1131 454 1803" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>⑥ 機械土工 (超ロングアームバックホウ土工) (18・0)</p> </div> <div data-bbox="494 1276 550 1657" style="margin-top: 20px;"> <p>表 2.1 一日当たり作業量 (m)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">作 業 量</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">147</td> </tr> </table> </div>	作 業 量	147	<div data-bbox="391 336 454 1008" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>⑦ 機械土工 (超ロングアームバックホウ土工) (18・0)</p> </div> <div data-bbox="494 481 550 862" style="margin-top: 20px;"> <p>表 2.1 一日当たり作業量 (m)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">作 業 量</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">118</td> </tr> </table> </div>	作 業 量	118
作 業 量	147					
作 業 量	118					

東日本大震災の被災地で適用する土木工事標準歩掛 土工(砂防)

現行基準 のページ	現行(土木工事標準歩掛)	被災地で適用する土木工事標準歩掛
	<p>土工(砂防)</p> <p>① 土工</p> <p>1. 適用範囲 木質材は、砂防工(木張堤、削崖堤、木固め、帯工、水叩き、柳壁、護岸)の施工に適用する。</p> <p>2. 施工概要 施工フローは、下流を順次とする。</p> <div style="text-align: center;"> </div> <p>(注) 木張堤で対応しているのは、矢印部分のみである。 図2-1 施工フロー</p>	<p>現行どおり</p>

東日本大震災の被災地で適用する土木工事標準歩掛 土工(砂防)

現行基準 のページ

現行(土木工事標準歩掛)

3. 機械の選定 機械・規格は、次表を標準とする。

表3.1 機械の選定

作業種別	機械名	規格	単位	数量	備 考
掘削 区画 切削	バックホウ	排出ガス対置型(第2次高) 乗用・クローラ型 山形0.8m ³ (H400.6m)	台	1	
	ブルドーザ	型別不明型(第1次高)0.8m ³ 乗用1台	#	1	
積込 み	大型ブレイカ (機械)	型別不明型(第2次高) 乗用・クローラ型 山形0.8m ³ (H400.6m)	#	1	タンクトラック ク使用時に適 用
	バックホウ	排出ガス対置型(第2次高) 乗用・クローラ型 山形0.8m ³ (H400.6m)	#	1	
運 搬	タンクトラック	10t積載	#	1	
埋戻・敷均し	ブルドーザ	排出ガス対置型(第1次高)0.8m ³ 乗用1台	#	1	土木機作業の 必要に応じて 必要量を標準と する
	バックホウ	排出ガス対置型(第2次高) 乗用・クローラ型 山形0.8m ³ (H400.6m)	#	1	
ブルドーザ	型別不明型(第1次高)0.8m ³ 乗用1台	#	1		

(注) 現場条件により、上記により異なる場合は、別途考慮する。

表3.2 土運搬作業の標準選定

運 搬 距 離	機 械 名	規 格	備 考
60m以下	ブルドーザ	高規格	
60mを超え	バックホウ・タンクトラック	高規格	

(注) 上記により異なる場合は、別途考慮する。

4. 機械の施工歩掛

(1) 土量の表示

すべて掘山土量で表示する。

ただし、掘山土量(掘山土量)をほくした土量及び掘削後の土量の状態に換算する場合は、「第2章 土工の概

算式」4.(1)の土量換算係数を乗じて算出する。

4-1 バックホウの作業能力

運搬口当り土工量は、次表を標準とする。

表4.1 日当り土工量

作業の種類	土 質 名	単 位	数 量	
			除雪なし	除雪あり
地 山 の 掘 削 積 込	レキ質土・砂・砂質土・粘性土	m ³	220	160
	岩塊玉石	#	180	120
ルーズな状態の積込み	レキ質土・砂・砂質土・粘性土	#	240	200
	岩塊玉石	#	200	160

(注) 1. 作業範囲は、機械走行面より上下は5m以内を標準とする。

2. 地山の掘削積込(取掛条件の内容)

除雪なし：作業現場がない、作業範囲が標準内及び掘削の混入等の影響による作業初量が少ない

く、運出した掘削作業が出来る場合。

除雪あり：作業現場がない、作業範囲が標準内及び掘削の混入等の影響による作業初量が多く、

運出した掘削作業が出来る場合。

3. 仮設岩(中硬岩以上)の積込みは、機械材料の混入等を行う。岩石作業の標準は、+0.25とする。

4. ルーズな状態の積込みは、積込みを伴わない掘削作業に適用出来る。

被災地で適用する土木工事標準歩掛

現行どおり

4. 機械の施工歩掛

(1) 土量の表示

すべて掘山土量で表示する。

ただし、掘山土量(掘山土量)をほくした土量及び掘削後の土量の状態に換算する場合は、「第2章 土工の概

算式」4.(1)の土量換算係数を乗じて算出する。

4-1 バックホウの作業能力

運搬口当り土工量は、次表を標準とする。

表4.1 日当り土工量

作業の種類	土 質 名	単 位	数 量	
			除雪なし	除雪あり
地 山 の 掘 削 積 込	レキ質土・砂・砂質土・粘性土	m ³	220	160
	岩塊玉石	#	180	120
ルーズな状態の積込み	レキ質土・砂・砂質土・粘性土	#	240	200
	岩塊玉石	#	200	160

(注) 1. 作業範囲は、機械走行面より上下は5m以内を標準とする。

2. 地山の掘削積込(取掛条件の内容)

除雪なし：作業現場がない、作業範囲が標準内及び掘削の混入等の影響による作業初量が少ない

く、運出した掘削作業が出来る場合。

除雪あり：作業現場がない、作業範囲が標準内及び掘削の混入等の影響による作業初量が多く、

運出した掘削作業が出来る場合。

3. 仮設岩(中硬岩以上)の積込みは、機械材料の混入等を行う。岩石作業の標準は、+0.25とする。

4. ルーズな状態の積込みは、積込みを伴わない掘削作業に適用出来る。

東日本大震災の被災地で適用する土木工事標準歩掛 土工(砂防)

現行基準 のページ

現行(土木工事標準歩掛)

4-2 プルトナーの掘削押土作業能力
運搬目当り土工量は、次表を標準とする。

表4.2 目当り施工量 (1日当り)

作業の種類	土質名	単位	数量
池山の掘削押土	粘土質土・砂・砂質土・粘性土	m ³	250
	岩質土	m ³	100
ルーズな状態の押土	粘土質土・砂・砂質土・粘性土	m ³	240
	岩質土	m ³	110

- (注) 1. プルトナーは、作業ヤードが広く、転石の投入等による作業障害が少ない現場作業に適用する。
 2. 上記の掘削量は、掘削距離60mまでの押土作業を念込んだ値である。
 3. 上記の掘削量は、転石を伴わない場合は、転石作業にも適用出来る。ただし、転石を伴う場合は、別途計上する。
 4. 破砕岩(中硬岩以上)の押土は機械材料の割増を行う。転石作業の補正は、+0.25とする。

4-3 グンブトラックの運搬作業能力
(1) グンブトラック(10t積載)による河床路の土砂100m³当り運搬日数は、次表を標準とする。

表4.3 100m³当り運搬日数(土砂) (100m³当り)

不良状態	バックホウ 吐出ガス対策型(第2次規制) クローラ型(積載0.8m ³ (容積0.6m ³))
運搬距離	グンブトラック 10t積載
運搬距離(km)	0.5以下 1.0以下 1.5以下 2.0以下 2.5以下 3.0以下 4.0以下
運搬日数(日)	0.80 0.90 1.0 1.1 1.3 1.4 1.6
運搬距離(km)	5.0以下 6.0以下 7.0以下
運搬日数(日)	1.8 2.1 2.3

- (注) 1. 上記は、積山100m³の土量を運搬する日数である。
 2. 運搬距離は片道であり、往復と仮定する場合は、平均値とする。
 3. 運搬系に一般道路を含む場合は、一般道路の走行距離が河床路より長い場合は、「第2家土工機械土工4-4(1)」による。
 4. 破砕岩(中硬岩以上)の運搬は、機械材料の割増を行う(朝日グループは除く) 転石作業の補正は、+0.25とする。

(2) 100m³当り運搬日数(転石・破砕)
 他が及び転石の運搬日数の補正は、「第2家土工機械土工(土砂) 4-4(2)」による。

被災地で適用する土木工事標準歩掛

現行どおり

東日本大震災の被災地で適用する土木工事標準歩掛
土工(砂防)

現行基準
のページ

現行(土木工事標準歩掛)

5. 土石工

5-1 軟弱を要する転石粒径

軟弱を要する転石粒径は、0.5m以上とする。

5-2 土工歩掛

軟岩は軟岩(Ⅰ)と軟岩(Ⅱ)を含む。硬岩は中硬岩と硬岩(Ⅰ)を含む。

5-2-1 岩石類別(機械)歩掛

大型ブレーカ使用の岩石類別歩掛は、次表を標準とする。

表5.1 岩石類別(機械)日当り集工量

土質・岩分類	単位	部工量
軟岩	m ³	51
硬岩	"	29
硬石	"	31

日当り掘削歩掛は、次表を標準とする。

表5.2 掘削歩掛(標準)日当り歩掛 (1日当り)

名称	規格	単位	土質・岩分類		
			軟岩	硬岩	転石
大型ブレーカ選転	油圧式1,300kg級	日	1.0	1.0	1.0
掘削費率		%	10	20	13

(注) 1. 作業時間は、機械走行面より上下に5m以内とする。

2. 上表には、後方除土法、法面整形は含まない。

3. 大型ブレーカのベームマシンの場合は、バックホウ吐出ガス削減型(第2次削減)・クローラ型(山形0.8m³(9480.5m³))とする。

4. 転石歩掛は、粒径50mm程度の大きさに破砕するものである。

5. 大型ブレーカ用スクラップホウの岩石作業の積算歩掛は、+0.10とする。ただし、軟岩を掘削する場合は積算歩掛は、+0.25とする。

6. 取捨量は大型ブレーカ用アセムル機であり、機械燃料及び運搬費に上表の歩を乗じた金額を上限として計上する。

7. 上表により無い場合は、別途考慮する。

被災地で適用する土木工事標準歩掛

現行どおり

東日本大震災の被災地で適用する土木工事標準歩掛 土工(砂防)

現行基準
のページ

現行(土木工事標準歩掛)

被災地で適用する土木工事標準歩掛

5-2-2 土石掘削(火災)

火災使用の土石掘削歩掛は、次表を標準とする。

表5.3 土石掘削(火災) 日当り施工量

土質・岩分類	単位	掘削量
軟岩	m ³	37
硬岩	"	21
板岩	"	9

日当り掘削歩掛は、次表を標準とする。

表5.4 土石掘削(火災) 日当り歩掛 (1.0割り)

名称	規格	単位	土質・岩分類	
			軟岩	硬岩
世帯役員		人	0.7	0.6
別当役員		"	1.9	1.6
特殊作業員		"	2.7	1.8
普通作業員		"	2.2	1.9
経費率		%	18	23

- (注) 1. 歩掛には、仕上歩掛を含む。
 2. 夜土取、夜根、爆破後の岩盤削片の集積、掃込み、岩盤掃却等の作業が必要の場合、別途計上する。
 3. 上表の歩掛には、空気圧縮機(吐出ガス汚濁型(第1次基準型)、前送機の運転労務を含む)、
 4. 高圧ポンプ、火薬、雷管の費用、レッグハンマ材料、ロッド・ビット等の損耗費及び空気圧縮機(吐出ガス汚濁型(第1次基準型))運転労務であり、労務費の合計額に上表の値を同じ金額を上乗せして計上する。
 5. 上表により異なる場合は、別途考慮する。

5-2-3 人力掘削歩掛

機械施工が出来ない箇所及び火災による破砕が出来ない箇所の人力掘削歩掛は、次表とする。
 なお、粘状土、砂及び砂質土、レキ質土、岩塊・玉石は、「第2次土木(人工土工)」による。

表5.5 人力掘削 日当り施工量

土質・岩分類	単位	掘削量
軟岩	m ³	9
硬岩	"	7
板岩	"	12

現行どおり

東日本大震災の被災地で適用する土木工事標準歩掛
土工(砂防)

現行基準
のページ

現行(土木工事標準歩掛)

被災地で適用する土木工事標準歩掛

日当り標準歩掛は、次表を標準とする。

表5.0 岩石掘削(人力)歩掛 (10当り)

名称	規格	単位	土質・岩分類			
			軟岩	硬岩	硬石	硬石
世帯		人	0.9	1.0	1.0	
特殊作業員		%	2.8	2.0	2.0	
普通作業員		%	1.9	2.0	2.0	
標準歩掛		%	7	7	7	7

- (注) 1. 上表の歩掛は、硬石(1)は含まないものとする。
 2. (注) 当部標準歩掛の作業が必要の場合は、別途計上する。
 3. 歩掛は、土上掘削を含む。
 4. 対象土質は、地山土質とする。
 5. 土質の分類には、空気圧縮機(吐出ガスが深型(第1次深型))、前照機の運用方法を含む。
 6. 歩掛には、掘り起こし及び切削し作業の歩掛は含まれない。
 7. 掘削費は、深型圧縮機(吐出ガスが深型(第1次深型))、連続掘削、前照機掘削であり、労務費の合計額に上表の歩掛を乗じた金額を上乗せして計上する。

6. 掘削費

(1) バックホウ掘削・掘削・掘削100m³当り単価表

名称	規格	単位	数量	単価	積算
バックホウ掘削	吐出ガスが深型(第1次深型)の連続掘削機(自走式)	日	100/D	表5.1	
掘削費		式	1		
計					

(注) D:日当り掘削量

(2) フロントローダー掘削100m³当り単価表

名称	規格	単位	数量	単価	積算
フロントローダー掘削	吐出ガスが深型(第1次深型)の連続掘削機(自走式)	日	100/D	表5.2	
掘削費		式	1		
計					

(注) D:日当り掘削量

(3) ダンプトラック運搬100m³当り単価表

名称	規格	単位	数量	単価	積算
ダンプトラック運搬	10t自走式	日	表5.3		
運搬費		式	1		
計					

(4) 岩石掘削(機械)10m³当り単価表

名称	規格	単位	数量	単価	積算
大型ブレイカ掘削	掘削式、300kg級	日	10/D	表5.1、表5.2	
掘削費		式	1		表5.2
計					

(注) D:日当り掘削量

現行どおり

東日本大震災の被災地で適用する土木工事標準歩掛
土工(砂防)

現行基準
のページ

現行(土木工事標準歩掛)

被災地で適用する土木工事標準歩掛

(5) 岩石掘削(火薬) 10m³当り単価表

名称	規格	単価	数量	源泉
世帯役		人	35.4×10/D	35.3, 35.4
前岩工		"	35.4×10/D	"
特殊作業員		"	35.4×10/D	"
普通作業員		"	35.4×10/D	"
雑費		式	1	35.4
計				

(注) D: 日当り施工量

(6) 岩石掘削(人力) 10m³当り単価表

名称	規格	単価	数量	源泉
世帯役		人	35.5×10/D	35.5, 35.6
特殊作業員		"	35.5×10/D	"
普通作業員		"	35.5×10/D	"
雑費		式	1	35.6
計				

(注) D: 日当り施工量

(7) 機械頭取単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ	排出ガス規制型(第2次基準) 10t・クローラ型 山形0.8m ³ (平均0.6m ³)	機-18	運転労務費率-1.00 燃料消費量-108 機械損料費率-1.67
ブルドーザ	排出ガス規制型(第1次基準) 10t	機-18	運転労務費率-1.00 燃料消費量-104 機械損料費率-2.16
クレーン	10t 初級	機-22	運転労務費率-1.00 燃料消費量-92 機械損料費率-1.33
大型ブローホウ(バックホウ)	加圧式1,300kg/2	機-20	機損料費 1-バックホウ (排出ガス規制型(第2次基準) 平均0.6m ³) 運転労務費率-1.00 燃料消費量-65 機械損料費率-1.30 機損料費 2-大型ブローホウ (加圧式1,300kg/2) 機損料費率-1.30

現行どおり

東日本大震災の被災地で適用する土木工事標準歩掛 土の敷均し締固め工

現行基準
のページ

現行(土木工事標準歩掛)

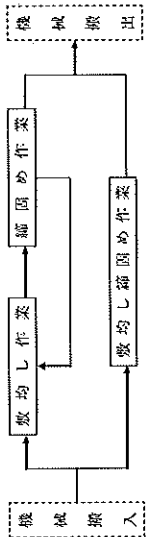
土の敷均し締固め工

1. 適用範囲及び施工概要

1-1 適用範囲

本資料の適用範囲は、路床・路床・築地の敷均し及び締固め作業に適用する。

1-2 施工概要(フロー)



(注) 本歩掛で対応しているのは、表範囲分のみである。

2. 機種の種類

各作業に使用する機械・規格は、次表を標準とする。

表2.1 機種の選定

作業	工種	作業の内容	機械名	規格
敷均し	路体	10,000m ³ 未満の場合	ブルドーザ	排出ガスが排気型 (第1次基準値)普通15t級
	築地	10,000m ³ 以上の場合	ブルドーザ	排出ガスが排気型 (第1次基準値)普通21t級
締固め	路体	トラブアイカゼリが使用できない場合など ブルドーザが使用できない場合など	ブルドーザ	排出ガスが排気型 (第1次基準値)普通15t級
	築地	10,000m ³ 未満の場合	ブルドーザ	排出ガスが排気型 (第1次基準値)普通15t級
敷均し締固め	路体	10,000m ³ 以上の場合	クイヤーローラ	排出ガスが排気型 (第1次基準値)普通21t級
	築地	10,000m ³ 未満の場合	ブルドーザ	排出ガスが排気型 (第1次基準値)普通15t級
敷均し締固め	路体	10,000m ³ 以上の場合	ブルドーザ	排出ガスが排気型 (第1次基準値)普通21t級
	築地	トラブアイカゼリが使用できない場合など ブルドーザが使用できない場合など	ブルドーザ	排出ガスが排気型 (第1次基準値)普通16t級
敷均し締固め	路体	10,000m ³ 未満の場合	ブルドーザ	排出ガスが排気型 (第1次基準値)普通15t級
	築地	10,000m ³ 以上の場合	ブルドーザ	排出ガスが排気型 (第1次基準値)普通21t級

(注) 1. なお、機種を選定するに当たっては、工事現場、作業条件、土質、土の含水比、他の工種との関連する機種の組合せ等により上表により異なる場合は、別途考慮する。
2. 上表で示す土質は、工事全体の設計基準土質である。
3. 築地材料がクイヤーローラの範囲外に適さない土質(砂など)の場合に、敷均し締固めを適用する。
4. クイヤーローラは要件とする。

被災地で適用する土木工事標準歩掛

現行どおり

東日本大震災の被災地で適用する土木工事標準歩掛 土の敷均し締固め工

現行基準 のページ

現行(土木工事標準歩掛)

3. 各作業の施工歩掛

3-1 日当り施工量

各作業の日当り施工量は、次表を標準とする。

表3.1 各作業の日当り施工量 (1日当り)

作業	工程	機種	規格	単位	作業条件 標準	障害あり
敷均し	躯体築装	ブルドーザ	排出ガス対策型 (第1次基準型)普通15t級	m ³	600	350
			排出ガス対策型 (第1次基準型)普通21t級			
			排出ガス対策型 (第1次基準型)普通16t級			
締固め	躯体築装	タイヤローラ	排出ガス対策型 (第1次基準型)普通15t級	m ³	1,330	560
			排出ガス対策型 (第1次基準型)普通21t級			
			排出ガス対策型 (第1次基準型)普通15t級			
敷均し	躯体築装	ブルドーザ	排出ガス対策型 (第1次基準型)普通15t級	m ³	410	190
			排出ガス対策型 (第1次基準型)普通21t級			
			排出ガス対策型 (第1次基準型)普通16t級			
締固め	躯体築装	ブルドーザ	排出ガス対策型 (第1次基準型)普通15t級	m ³	340	160
			排出ガス対策型 (第1次基準型)普通21t級			
			排出ガス対策型 (第1次基準型)普通15t級			
締固め	躯体築装	ブルドーザ	排出ガス対策型 (第1次基準型)普通15t級	m ³	240	130
			排出ガス対策型 (第1次基準型)普通21t級			
			排出ガス対策型 (第1次基準型)普通15t級			

(注) 作業条件は次の諸条件を考慮し、選択するものとする。

標準：作業現場が広く、かつ作業障害が少ない場合

(例) 又は新設のハイパス工事、あるいは新設の築堤工事等

障害あり：作業現場が狭い、又は作業障害が多い場合

(例) 又は既設の上の工事、一車線程度の地道拡幅工事、あるいは新築(敷付・嵩上)工事等

3-2 補助労務

機械による敷均し及び締固め作業の補助として、普通作業員を計上する。補助労務は次表を標準とする。

表3.2 機械補助労務 (100m³当り)

作業	機種	名称	単位	数量
敷均し・敷均し締固め	躯体・築装	普通作業員	人	0.2
		普通作業員	人	0.3

被災地で適用する土木工事標準歩掛

3. 各作業の施工歩掛

3-1 日当り施工量

各作業の日当り施工量は、次表を標準とする。

表3.1 各作業の日当り施工量 (1日当り)

作業	工程	機種	規格	単位	作業条件 標準	障害あり
敷均し	躯体築装	ブルドーザ	排出ガス対策型 (第1次基準型)普通15t級	m ³	552	280
			排出ガス対策型 (第1次基準型)普通21t級			
			排出ガス対策型 (第1次基準型)普通16t級			
締固め	躯体築装	タイヤローラ	排出ガス対策型 (第1次基準型)普通15t級	m ³	1,064	448
			排出ガス対策型 (第1次基準型)普通21t級			
			排出ガス対策型 (第1次基準型)普通15t級			
敷均し	躯体築装	ブルドーザ	排出ガス対策型 (第1次基準型)普通15t級	m ³	328	152
			排出ガス対策型 (第1次基準型)普通21t級			
			排出ガス対策型 (第1次基準型)普通16t級			
締固め	躯体築装	ブルドーザ	排出ガス対策型 (第1次基準型)普通15t級	m ³	272	128
			排出ガス対策型 (第1次基準型)普通21t級			
			排出ガス対策型 (第1次基準型)普通15t級			

(注) 作業条件は次の諸条件を考慮し、選択するものとする。

標準：作業現場が広く、かつ作業障害が少ない場合

(例) 又は新設のハイパス工事、あるいは新設の築堤工事等

障害あり：作業現場が狭い、又は作業障害が多い場合

(例) 又は既設の上の工事、一車線程度の地道拡幅工事、あるいは新築(敷付・嵩上)工事等

3-2 補助労務

機械による敷均し及び締固め作業の補助として、普通作業員を計上する。補助労務は次表を標準とする。

表3.2 機械補助労務 (100m³当り)

作業	機種	名称	単位	数量
敷均し・敷均し締固め	躯体・築装	普通作業員	人	0.25
		普通作業員	人	0.38

東日本大震災の被災地で適用する土木工事標準歩掛 土の敷均し締固め工

現行基準 のページ

現行(土木工事標準歩掛)

4. 狭きな箇所での土工歩掛

4-1 適用範囲

路床・路床・築地等の工事において施工幅員が4.0m未満の狭き箇所の作業で振動機種の適用が困難な場合には適用する機械・規格は次表のとおりとする。

表4.1 機械の選定

作業	施工幅員 (W)	機械名	規格
敷均し	2.5m ≤ W < 4.0m	ブルドーザ	排出ガス対策型(第1次基準型) 普通 3 t級
	W < 2.5m	人力土工	第2業士の人力土工 人の盛土(相戻し)による
締固め	1.0m ≤ W < 4.0m	振動ローラ	排出ガス対策型(第1次基準型) 蒸気式・コンパインド型 3~4 t
	W < 1.0m	振動ローラ	ハンドガイド式 0.8~1.1 t

(注) 1. 上記により適用の場合は、別途考慮する。
2. 振動ローラは、資料とする。

4-2 日当り作業量

各作業の日当り作業量は、次表を標準とする。

表4.2 敷均し作業の日当り作業量 (1日当り)

作業	機種名	規格	単位	数量
敷均し	ブルドーザ	排出ガス対策型(第1次基準型) 普通 3 t級	m ³	130

(注) 1. 敷均し作業の仕上厚さは0.2~0.3mとする。

表4.3 締固め作業の日当り作業量 (1日当り)

作業	機種名	規格	単位	数量
締固め	路床	振動ローラ	m ³	100
	路床・築地等	振動ローラ	排出ガス対策型(第1次基準型) 蒸気式・コンパインド型 3~4 t	#
振動ローラ		ハンドガイド式 0.8~1.1 t	#	120
振動ローラ		排出ガス対策型(第1次基準型) 蒸気式・コンパインド型 3~4 t	#	70

被災地で適用する土木工事標準歩掛

現行どおり

4-2 日当り作業量

各作業の日当り作業量は、次表を標準とする。

表4.2 敷均し作業の日当り作業量 (1日当り)

作業	機種名	規格	単位	数量
敷均し	ブルドーザ	排出ガス対策型(第1次基準型) 普通 3 t級	m ³	104

(注) 1. 敷均し作業の仕上厚さは0.2~0.3mとする。

表4.3 締固め作業の日当り作業量 (1日当り)

作業	機種名	規格	単位	数量
締固め	路床	振動ローラ	m ³	80
	路床・築地等	振動ローラ	排出ガス対策型(第1次基準型) 蒸気式・コンパインド型 3~4 t	#
振動ローラ		ハンドガイド式 0.8~1.1 t	#	96
振動ローラ		排出ガス対策型(第1次基準型) 蒸気式・コンパインド型 3~4 t	#	56

東日本大震災の被災地で適用する土木工事標準歩掛
土の敷均し締固め工

現行基準
のページ

現行(土木工事標準歩掛)

4-3 補助労務

敷均し作業の補助労務は、次表を標準とする。

名称	単位	数量
普通作業員	人	0.3

5. 単価表

(1) ブルドローザ敷均し100m²当り単価表

名称	規格	単位	数量	標準
ブルドローザ運転	補助ガスエンジン(15馬力) 普通15t級以上車 他種10t級	日	100/D	表3.1
普通作業員		人		表3.2
諸雑費		式	1	
計				

(注) D: 日当り施工量

(2) タイヤローザ締固め100m²当り単価表

名称	規格	単位	数量	標準
タイヤローザ運転	補助ガスエンジン(15馬力) 8~20t	日	100/D	表3.1
諸雑費		式	1	
計				

(注) D: 日当り施工量

(3) ブルドローザ敷均し締固め100m²当り単価表

名称	規格	単位	数量	標準
ブルドローザ運転	補助ガスエンジン(15馬力) 普通15t級以上車 他種10t級	日	100/D	表3.1
普通作業員		人		表3.2
諸雑費		式	1	
計				

(注) D: 日当り施工量

被災地で適用する土木工事標準歩掛

4-3 補助労務

敷均し作業の補助労務は、次表を標準とする。

名称	単位	数量
普通作業員	人	0.38

現行どおり

東日本大震災の被災地で適用する土木工事標準歩掛
土の敷均し締固め工

現行基準 のページ	現行(土木工事標準歩掛)	被災地で適用する土木工事標準歩掛																																													
	<p>(4) 3t縦アムドローザ敷均し100m²当り単価表</p> <table border="1" data-bbox="448 1173 592 1751"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>単価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アムドローザ運搬機</td> <td>排出ガス対策型(3t積込)</td> <td>日</td> <td>100/D</td> <td>表4.2</td> </tr> <tr> <td>普通作業員</td> <td>人</td> <td></td> <td></td> <td>表4.4</td> </tr> <tr> <td>諸雑費</td> <td>式</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) D:日当り施工量</p> <p>(5) 振動ローザ締固め100m²当り単価表</p> <table border="1" data-bbox="715 1173 863 1751"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>単価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>振動ローザ運搬機</td> <td>排出ガス対策型(3t積込) 振動式、コンバイン型、3~4t、又は、ハンドタイプ式 0.8~1.1t</td> <td>日</td> <td>100/D</td> <td>表4.3</td> </tr> <tr> <td>諸雑費</td> <td>式</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) D:日当り施工量</p>	名称	規格	単位	数量	単価	アムドローザ運搬機	排出ガス対策型(3t積込)	日	100/D	表4.2	普通作業員	人			表4.4	諸雑費	式		1		計					名称	規格	単位	数量	単価	振動ローザ運搬機	排出ガス対策型(3t積込) 振動式、コンバイン型、3~4t、又は、ハンドタイプ式 0.8~1.1t	日	100/D	表4.3	諸雑費	式		1		計					<p>現行どおり</p>
名称	規格	単位	数量	単価																																											
アムドローザ運搬機	排出ガス対策型(3t積込)	日	100/D	表4.2																																											
普通作業員	人			表4.4																																											
諸雑費	式		1																																												
計																																															
名称	規格	単位	数量	単価																																											
振動ローザ運搬機	排出ガス対策型(3t積込) 振動式、コンバイン型、3~4t、又は、ハンドタイプ式 0.8~1.1t	日	100/D	表4.3																																											
諸雑費	式		1																																												
計																																															

東日本大震災の被災地で適用する土木工事標準歩掛
土の敷均し締固め工

現行基準
のページ

現行(土木工事標準歩掛)

被災地で適用する土木工事標準歩掛

(6) 機械運転車面表

機械名	規格	適用車種	指 定 事 項
ブルドーザ (敷均し)	排出ガス対策型(第1次基準) 普通15t級	機-18	運転労務費率→1.00 燃料消費率→119 機械損料費率→1.55
ブルドーザ (敷均し)	排出ガス対策型(第1次基準) 普通21t級	機-18	運転労務費率→1.00 燃料消費率→165 機械損料費率→1.55
ブルドーザ (敷均し)	排出ガス対策型(第1次基準) 普通15t級	機-18	運転労務費率→1.00 燃料消費率→122 機械損料費率→1.64
クイボローラ (締固め)	排出ガス対策型(第1次基準) 8~20t	機-28	運転労務費率→1.00 燃料消費率→38 質料費率→1.36
ブルドーザ (敷均し・締固め)	排出ガス対策型(第1次基準) 普通15t級	機-18	運転労務費率→1.00 燃料消費率→112 機械損料費率→1.55
ブルドーザ (敷均し・締固め)	排出ガス対策型(第1次基準) 普通21t級	機-18	運転労務費率→1.00 燃料消費率→181 機械損料費率→1.55
ブルドーザ (敷均し・締固め)	排出ガス対策型(第1次基準) 普通15t級	機-18	運転労務費率→1.00 燃料消費率→99 機械損料費率→1.64
ブルドーザ (敷均し)	排出ガス対策型(第1次基準) 普通3t級	機-18	運転労務費率→1.00 燃料消費率→29 機械損料費率→1.56
振動ローラ (締固め)	排出ガス対策型(第1次基準) 振動式・コンパイル 3~4t	機-28	運転労務費率→1.00 燃料消費率→14 質料費率→1.60
振動ローラ (締固め)	ハンドガイド式 0.8~1.1t	機-01	運転労務費率→1.00 燃料消費率→4.4 質料費率→1.74

現行どおり